

おもてなし用意万全。山梨県は観て食べ、登ってよし！

ピンク色のじゅうたんの先に雄大にそびえる富士山。日本の象徴であり、世界文化遺産となった富士山の麓、富士河口湖町本栖で毎年開かれている「富士芝桜まつり」が5月27日、閉幕した。約2・4km²の会場内には約80万株ものシバザクラが咲き誇った。富士山との見事な「美」の競演は、訪れた人々の目を楽しませ、心を癒やしたことだろう。

山梨における観光の王道といえば富士山。毎年、国内外から多くの観光客が訪れている。富士河口湖町が今年2月に公表した観光動向の統計データ（2017年4～9月）では、外国人の延べ宿泊客数は対前年比102・2%。登山シーズンの8月は112・6%を記録した。観光案内所を訪れる外国人旅行者は東アジアや東南アジアからの来所者が6割を超え、中でもインドネシアやフィリピン、インド、カナダからの来所者が増えたという。

山梨県が富士山五合目で運営するインフォメーションセンターが5月1日、開所した。登山情報や富士山の歴史を伝えようと設置されたもので、これまで英語と中国語の通訳案内士が常駐していた。五合目までは車で上れることもあり、気軽に訪れる人は少なくない。加えて、世界文化遺産認定後は、外国人観光客が一層増えた。

こうした中、今季のセンター開所の目玉は翻訳機器導入だろう。50カ国以上の言語を翻訳してくれるというから頼もしい。とはいえ、片言でも笑顔の対応が最高のおもてなしになるであろうことを忘れてはならない。

余談だが、山梨県内のゴルフ場のほとんどに富士山を望むコースがある。先日訪れたゴルフ場で、韓国人ファミリーらしきグループがゴルフを楽しんでいた。霧が晴れ、富士山が姿を現すと歓声が上がったのはいうまでもない。

さて、富士山の麓にあり、個性的なアトラクションで有名な遊園地「富士急ハイランド」（富士吉田市）では7月中旬ごろから入園料が無料になる。夏休みに合わせて、山梨県観光はいかがだろうか。生産量日本一の桃やブドウなど、旬の果物もお待ちしています。

山梨日日新聞社広告局広告営業部長 日原 淳子



写真左より。
富士河口湖町本栖で毎年開かれている「富士芝桜まつり」の風景と、
山梨県の特産品の桃とブドウ。ともに生産量日本一。